

みちのく 101キロ marathon 最終ステージ

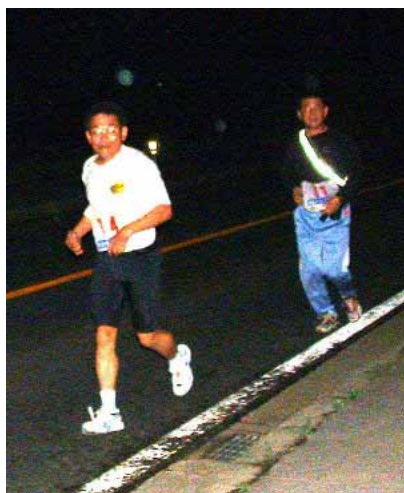
平成16年5月30日陸奥101キロmarathon大会最終ステージが開催された。長井市タスパークホテル前を。午前零時スタート、飯坂温泉まで走るといもの。最終ステージにふさわしい選手役員総勢40人が駆けつけた。



午後11時45分開会式



森崎さんより注意事項の説明



最終ステージということで、長井鉄人会は、ABの2つのチームで参加、第一走者は高年齢の二人、蒲生光男と深沢則仁が勤める、これからとりあえず3時間はしる



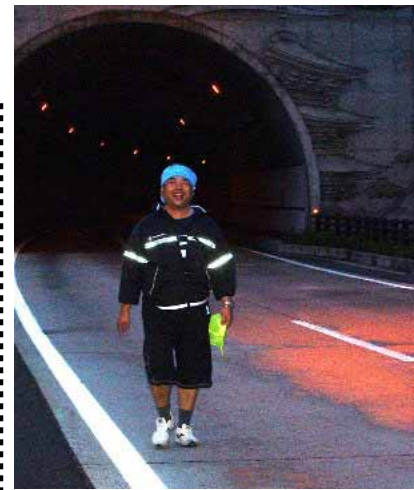


午前 3 時 3 0 分を
過ぎたあたり・・・
そろそろ言い知れぬ
疲労の始まり



写真左レースナンバー1
は、これまで全ステージ完
走の古山選手、

写真右教はただひたすら歩
く山形県高橋伊万夫
君・・・
彼は結局 5 時間歩くの
だ・・・



午前 4 時も過ぎそろそろ明るくなる



長井鉄人会 A チーム
大平選手の走りは軽快だ、
ウルトラ marathon 向きの
走りに賞賛の声・・・



埼玉から
参加の西
館義孝選
手



古山選手の軽快な走りはつづく、
夜もすっかり明けて、すがすがしい
朝の空気、50キロにそろそろ到
達のいうころか・・・



ご存知深沢選手、第一区3時
間後、最終残り10キロ、天気
もよく気温30度を超える炎天
下で、走りにも気合が入るとい
うもの・・・





ゴールしたわけではありません、これから残り10キロ走るのですがいい年して馬鹿はしゃぎです・・



いよいよ飯坂温泉新亀旅館前、フィニッシュの瞬間、ようやく終わったという感じ、午後1時ころでした・・・。



本当のゴールは新亀旅館の風呂場でした。古山選手はみんなに風呂桶の中に投げ入れられて本当のフィニッシュでした・・・



風呂場の中で、記念写真です・・・裸の付き合い？ いやいや本当にお疲れ様でした



最終ステージは、古山選手が予定通り完走して幕を閉じた。いろいろのドラマもあった。東北大学の選手は90キロまで走ってレースをやめた。彼の101キロmarathonはこのとき終わったが、新たなレースがこのときから始まっている。彼の頑張りに会場から大きい拍手が沸いた。

- 第一回 1994.4.24 白河市から福島市
- 第二回 1994.9.24 福島市から仙台市
- 第三回 1995.10.15 仙台市から一関市
- 第四回 1996.10.6 一関市から盛岡市
- 第五回 1997.10.5 盛岡市から三戸町
- 第六回 1998.10.11 三戸町から夜越山
- 第七回 1999.10.17 夜越山から大鰐町
- 第八回 2000.10.29 大館市から大湊村
- 第九回 2001.10.3 大湊村から金裏町
- 第十回 2002.10.6 金裏町から舟形町
- 第十一回 2003.6.1 舟形町から長井市
- 第十二回 2004.5.30 長井市から飯坂町

この度の最終ステージは全面的に福島県協会の運営で進められました。事務局長の古山千寿子さん、そして多くのボランティアの皆様、一睡もせず献身的に最後までありがとうございました。収支決算も送っていただきましたが、不足分を森崎さんが自費で補っていただきました。東北ブロック協議会事業として、101キロmarathon に変わるものを探した新たな挑戦をしたいと思います・・・。